

勉誠出版

訓点語学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: c78f350347

(使用期限: ~2020年12月31日)

謹啓

秋冷の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。

ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: c78f350347 (使用期限: ~2020年12月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・**2000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**（※ 海外への配送に関しては、実費を頂戴します）

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
訓点語学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



勉強出版 注文書

Email info@bensei.jp

FAX 03-5215-9025

※メール、FAX、郵送にてご注文を承ります。
※弊社ホームページのホーム画面上部のバナー「研究書 新刊・近刊のご案内」、もしくはお知らせ欄「研究書 新刊・近刊のご案内」より、注文書(PDFかエクセル)をダウンロードしてご記入のうえ、メールかFAXにて、お送りください。
※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

No.	書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	冊数
◆事典・総記						
1	文化情報学事典	村上征勝 監修／金明哲・小木曾智信・中國聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	
◆歴史・文化財・美術史・思想史						
2	古代の日本と東アジア 人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	22279	10,000	
3	新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	22278	12,000	
4	古文書研究 第89号	日本古文書学会 編	2020/6	22416	3,800	
6	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編 国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	22272	7,800	
7	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	
8	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	
5	金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	22288	10,000	
11	生きるための地域史―東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	22290	8,000	
9	近世大名墓の考古学 東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	22276	12,000	
10	儒教儀礼と近世日本社会 闇斎学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	21056	10,000	
12	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22266	6,000	
13	近世豪商・豪農の(家)経営と書物受容―北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	
14	近世都市の常態と非常態―人為的自然環境と災害	渡辺浩一／ムシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	
15	江戸日本橋商人の記録―〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	
16	スイス使節団が見た幕末の日本 プレンワルド日記1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・プレんワルド日記研究会 編	2020/6	22275	9,800	
17	ロマンフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修／牧野元紀 編	2020/8	22286	3,800	
18	甕る「豊後切支丹史料」―バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	
19	琉球船漂着者の「聞書」世界―『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	29197	10,000	
20	新彰義隊戦史	大蔵八郎 編	2020/9	22285	7,000	
21	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	
22	日本画の所在―東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	
23	宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	22069	4,500	
24	描かれたマカオ―ダーウエント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	
25	上海におけるプロテスタント 現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	21055	6,000	
26	現代ドイツへの視座―歴史学的アプローチ 2 ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ	石田勇治・川喜田敦子 編	2020/9	22513	6,000	
27	現代ドイツへの視座―歴史学的アプローチ 3 ドイツ市民社会の史的展開	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史 編	2020/9	22514	6,000	
28	「本読み」の民俗誌 交差する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	23081	3,500	
29	メディアのなかの仏教 近現代の仏教的人間像	森寛 編	2020/5	21054	7,500	
30	洪沢敬三とアテック・ミュージアム―知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	
31	荒れ野の六十年―東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	
◆日本語学・言語学						
32	日本書紀声点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	
33	龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	
34	近世後期テニヲハ論の展開と活用研究	遠藤佳那子 著	2020/1	28047	8,000	
35	論究日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	
36	サハ語文法―統語的派生と言語類型論的特異性	江畑冬生 著	2020/4	28049	9,800	
37	国宝 漢書楊雄伝 第五十七	京都国立博物館 原本所蔵・編 石塚晴通・上杉智英・小助川貞次 解説	2019/12	28046	35,000	
38	続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり―老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	
◆古典文学・文学史						
41	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	
42	水門―言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	
43	本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	
44	仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	石川一 編	2020/3	29195	10,000	
39	挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	22292	3,800	
40	江戸庶民のまじない集覧―創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	20076	6,000	
45	南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	
49	お伽草子超入門	伊藤慎吾 編	2020/7	29188	2,800	
51	吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/9	22291	10,000	
46	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	
47	明治の教養―変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	
48	杜甫研究年報 3 杜甫研究年報 第三号	日本杜甫学会 編	2020/5	29443	2,000	
50	白居易研究年報 20 白居易研究年報 最終号 特集 歌舞音曲 附 日本国内白居易研究文献解題目録	白居易研究会 編	2020/9	07098	9,000	
52	漱石文体見本帳	北川扶生子 著	2020/1	29189	2,800	
53	ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	
54	同性愛文学の系譜―日本近現代文学におけるLGBT以前／以後	伊藤氏貴 著	2020/2	29191	2,800	
55	平川祐弘決定版著作集 ダンテ『神曲』講義	平川祐弘 著	2020/2	29422	10,000	
56	平川祐弘決定版著作集 西洋人の神道観―日本人のアイデンティティーを求めて	平川祐弘 著	2020/3	29416	8,000	
57	平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	14,000	
58	平川祐弘決定版著作集 開国の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	14,000	
59	平川祐弘決定版著作集 アーサー・ウェリー 『源氏物語』の翻訳者	平川祐弘 著	2020/7	29424	14,000	
60	アメリカ現代詩入門―エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	
61	100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆古 著	2020/3	29194	2,800	

No.	書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	冊数
◆図書館学・アーカイブ						
62	デジタルアーカイブ・ベーシック3 自然史・理工系研究データの活用	井上透 監修／中村覚 責任編集	2020/4	20283	2,500	
63	ライブラリーぶっくす 司書のお仕事2 本との出会いを届けます	大橋崇行 著／小曾川真貴 監修	2020/10	20075	1,800	
◆統計学						
64	この本を書いたのは誰だ？—統計で探る“文章の指紋”	村上征勝 著	2020/4	29198	1,800	
65	R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	
◆アジア遊学						
66	240 六朝文化と日本—謝靈運という視座から	蔣義喬 編著	2019/12	22706	2,800	
67	241 源実朝—虚実を越えて	渡部泰明 編	2019/12	22707	2,800	
68	242 中国學術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	
69	243 中央アジアの歴史と現在—草原の叡智	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	
70	244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	22710	3,200	
71	245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	
72	246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	
73	247 移動するメディアとプロパガンダ—日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	
74	248 明治が歴史になったとき 史学史としての大久保利謙	佐藤雄基 編	2020/6	22714	2,800	
75	249 漢学とは何か 漢唐および清中後期の学術世界	川原秀城 編	2020/7	22715	2,800	
76	250 酔いの文化史 儀礼から病まで	伊藤信博 編	2020/8	22716	2,800	
77	251 仏教の東漸と西漸	荒見泰史 編	2020/9	22717	2,800	
78	252 中世日本の茶と文化 生産・流通・消費をとおして	永井晋 編	2020/9	22718	2,800	
79	253 ポストコロナ時代の東アジア 新しい世界の国家・宗教・日常	玄武岩・藤野陽平 編	2020/9	22719	2,800	
◆書物学						
80	第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	20718	1,800	

日本書紀声点本の研究

鈴木 豊〔著〕

目次

はしがき／凡例

序論

第Ⅰ部 『日本書紀』声点本の資料価値に関する研究

- 第1章 『日本書紀』神代巻の声点
第2章 乾元本紀所引『日本紀私記』の声点について
第3章 乾元本『日本書紀』万葉仮名訓の声点
第4章 岩崎本『日本書紀』の声点
第5章 訓読漢字の声点のアクセント表示法
第6章 『日本書紀』被訓注字の声点
第7章 『古語拾遺』の声点
第8章 『日本書紀』声点本の濁音表示
第9章 『古語拾遺』声点本の濁音表示
第10章 『日本書紀』a群の万葉仮名

——原音声調と日本語アクセントとの対応——

第Ⅱ部 『日本書紀』声点本の成立過程に関する研究

- 第1章 『弘仁私記』序の「以丹点明輕重」
第2章 乾元本紀所引『日本紀私記』の万葉仮名
第3章 『日本書紀』古写本中の万葉仮名表記の和訓
（付）『日本書紀』古写本中の万葉仮名訓語彙索引
（和名抄）所引『公望私記』の万葉仮名訓
第5章 延喜『公望私記』の構造
第6章 日本紀講書とアクセント

第Ⅲ部 平安時代京都アクセントに関する研究

- 第1章 和語声点資料の差声方式
第2章 助詞「の」のアクセント
第3章 アクセント史研究における拍内下降
第4章 平声軽点の消滅過程
第5章 アクセント体系大変化の要因
第6章 『金光明最勝王經音義』所載「以呂波」のアクセント
第7章 いろは歌の作者について——いろは48字説の検討——

結論

参考文献／あとがき／初出一覧

【著者プロフィール】

鈴木 豊（すずき ゆたか）

文京学院大学外国語学部教授。専門は日本語学。

著書：論文に『日本語アクセント史総合資料索引篇』『同研究篇』（秋永一枝・上野和昭・坂本清恵・佐藤栄作氏と共編、東京堂出版、一九九七・一九九八年）『日本書紀神皇卷諸本声点付語彙索引』（アクセント史資料研究会、二〇〇三年）、『連濁研究史——ライマンの法則を中心に——』（ティモシー・J・パンス、金子恵美子、渡邊靖史編『連濁の研究』国立国語研究所プロジェクト論文選集）開拓社、二〇一七年）などがある。

本体 一四、〇〇〇円（＋税）

B5判上製カバー装・四六四頁
二〇二〇年四月刊行

ISBN978-4-585-28048-4 C3081

書名	部数
日本書紀 声点本の研究	本体14,000円（＋税） B5判上製・カバー装 464頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28048-4 C3081
鈴木豊〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

龍谷大学図書館蔵

くろだにしょうにんごとうろく
げんこうばん

黒谷上人語燈録

元亨版
翻刻および総索引

宗祖法然上人の法語・消息をまとめて伝える

浄土宗・浄土真宗における貴重文献

『黒谷上人語燈録』

完本として最古かつ唯一の伝本である

龍谷大学図書館蔵元亨元年(一三二一)刊本の全編を、
同時代に付された訓点・振り仮名を含め、詳細に翻刻、
さらに語彙索引・漢字索引を具備し、

仏教学のみならず、古代における

日常語・口頭語研究、言語位相論的研究、

漢文訓読史研究等、諸分野の研究に裨益する決定版。

【主編者プロフィール】

佐々木勇 (ささき・いさむ)

広島大学大学院・教授。

『平安鎌倉時代における日本漢音の研究』(汲古書院、二〇〇九年)、『徒然草』
第九十二段の「得失」——文献学による古典本文確定の例として——(「國語
國文」87(3)、臨川書店、二〇一八年三月)などがある。

【目次】

カラー口絵

緒言……佐々木勇

【本文篇】

凡例

本文翻刻

【索引篇】

語彙総索引

あ行／か行／さ行／

た行／な行／は行／ま行／や行／ら行／わ行

漢字索引

【研究篇】

日本語史資料としての

龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』……佐々木勇

龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』の

才段勘長音表記……坂水貴司

龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』の

仮名文字遣い……土肥新一郎

後記……佐々木勇



法然上人絵傳 東京国立博物館蔵

(出典＝国立博物館所蔵品統合検索システム(https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-1599?locale=ja))

本体 一八、〇〇〇円(＋税)
B5判上製カバー装・六四二頁
二〇二〇年四月刊行
ISBN978-4-585-28050-7 C3081

書名	部数
龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引 佐々木勇【主編】 本体 18,000円(＋税) B5判上製カバー装・642頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28050-7 C3081	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

国宝

漢書楊雄伝 第五十七

かんじょようゆうでん

本体二五、〇〇〇円(十税)

A3判変形上製・函入特装本・一〇八頁

二〇一九年十二月刊行

ISBN978-4-585-28046-0 C3080

京都国立博物館 [原本所蔵・編]

石塚晴通 北海道大学名誉教授
東洋文庫研究員

上杉智英 京都国立博物館
美術室研究員 [解説]

小助川貞次 富山大学教授

現存最古、唯一の唐代写本を

原寸原色復元。

筆跡・紙質・多色詳密な訓点を再現。

目次

序文

影印

解題

書誌解題……上杉智英

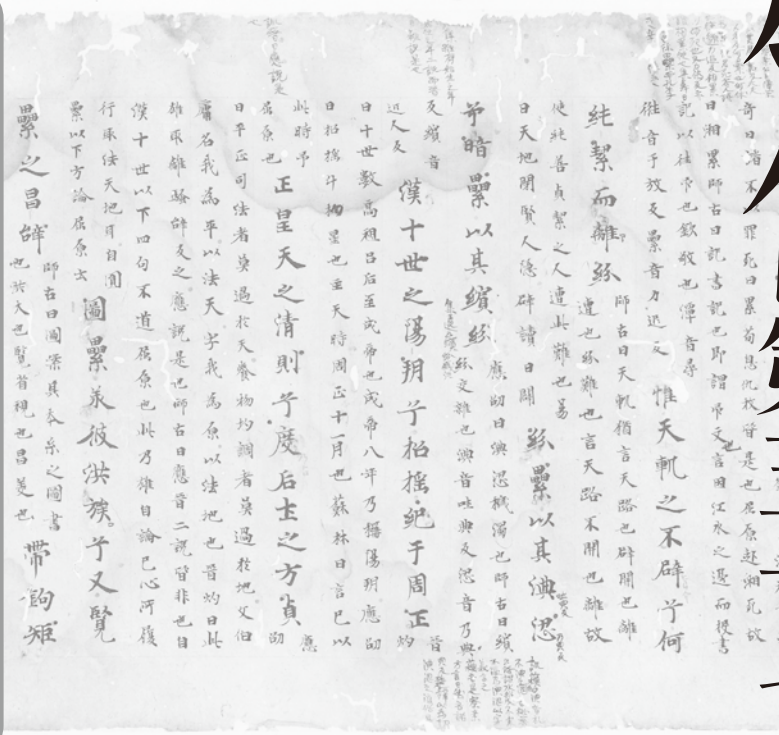
本文・訓点解題……石塚晴通・小助川貞次

本書の特長

●漢書楊雄伝の現存最古、唯一の唐代写本(京都国立博物館所蔵)の全編を原寸・原色にて影印。

●高精細デジタル撮影により訓点・筆勢・筆致・紙質形状・美観など文化財の現在の状況を余すところなく再現。

●上杉智英・石塚晴通・小助川貞次による新知見を含む解題を付し、国宝『漢書楊雄伝』の文化史的位置づけを明らかにした。



*『漢書』とは……

中国の正史、二十四史の一つとされる。一〇〇巻。後漢の文人、班固(三二〜九二)の撰。前漢の高祖より王莽の地皇四年までの二二九年間(紀元前二〇六〜後二三)の史事を紀伝体にて記す断代史。帝紀一二巻・表八巻・志一〇巻・列伝七〇巻より成る。

*『楊雄』とは……

字は子雲。漢の蜀郡(現・四川省)成都の人。前漢時代末期の文人、学者、哲学者。楊雄とも。若い頃から辞賦作りに没頭し、都・長安に登ると官途に就いた。「甘泉賦」「長楊賦」など優れた辞賦を残し、その後は、学者として「太玄経」「法言」「方言」などの著作を世に輩出した。

注
文
書

書 名

国宝 漢書楊雄伝 第五十七

京都国立博物館 [原本所蔵・編]

石塚晴通・上杉智英・小助川貞次 [解説]

通信欄

部 数

本体 35,000円(+税)

A3判変形上製・函入特装本・108頁
2019年12月刊行
ISBN978-4-585-28046-0 C3080

部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

近世後期テニヲハ論の展開と活用研究

遠藤佳那子〔著〕

日本語文法研究史を辿るための必読書！

漢文訓読や歌論・連歌論等、

日本語に関わる人々の関心事であり続けた「テニヲハ」。

近世後期に入ると、国学者たちはテニヲハの研究を深め、
陸続と語学書や活用表が編まれた。

現代とは異なる範囲と尺度を持つその活用表は、
語学的な営為の結晶であるとともに

歌学・古典学の精髓でもあった。

近世の伝統的なテニヲハ研究を、
動詞の活用研究との関係から辿り、

近代的文法研究にどのような影響を与えたのかを検討。

国学研究の地平に肉薄し、その射程を読み解く。

附録として未発表資料、

黒川真頼『詞の栞』影印・翻刻を掲載。

〔平成三十年度 新村出記念財団重山文庫 刊行助成出版〕

*「テニヲハ」とは…

助詞・助動詞のことを指す。「テニヲハ」という用語はヲコト
点の四隅にある点が起源とされ、はじめは漢文訓読や和文の
漢字表記を試みる過程において問題とされた。その一方で、
歌論や連歌論の世界でも和歌や連歌を創作する際に、歌の出
来を左右する要として重要視されたため、「テニヲハ」は最重
要項目の位置を占めた。

〔目次〕

口絵 黒川真頼 草稿『詞の栞』影印

巻頭言◎服部隆

はじめに／序章

第一部 完了「リ」の学説史

第一章 完了「リ」考——鈴木服まで

第二章 完了「リ」考——本居春庭以降

第三章 「自他」再考

第二部 命令形の学説史

第四章 「命令形」考

第五章 続「命令形」考——明治前期における

第六章 「属」考——意味分類の試み

第三部 八衢の系譜

第七章 黒川真頼の活用研究と草稿『語学雑図』

第八章 黒川真頼における『詞八衢』の受容と展開

終章

おわりに

〔附録一〕東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録（語学

之部）小型本／黒川文庫小型本 調査報告

〔附録二〕黒川真頼 草稿『詞の栞』影印・翻刻（一部）

〔附録三〕黒川真頼『詞乃栞打聴』翻刻

参考文献・引用文献一覧／初出一覧／索引

〔著者紹介〕

遠藤佳那子（えんどう・かなこ）一九八六年生。上智大学大学院
文学研究科国文学専攻博士後期課程満期退学。博士（文学）。現在
都留文科大学・フェリス学院大学・実践女子大学非常勤講師。専
門は日本語学、日本語学史。主な論文に「自他」再考——近世テニ
ヲハ論における（『上智大学国文学論集』50、二〇一七年）、明治
前期の活用表における「命令形」（『日本近代語研究』6、二〇一七
年）、黒川真頼における『詞八衢』の受容と展開（『国語と国文学』
94、二〇一七年）などがある。

本体 八、〇〇〇円（＋税）

A5判上製カバー装・三四四頁

二〇二〇年一月刊行

ISBN978-4-585-28047-7 C3081

書 名	部 数
近世後期テニヲハ論の展開と活用研究 遠藤佳那子〔著〕	本体8,000円（＋税） A5判上製カバー装・344頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-28047-7 C3081
ご送付先ご住所（通信欄）	

論究 日本近代語 第1集

日本近代語研究会 [編]

創刊!

広義の日本近代語における歴史と構造を、
文字、文法、語彙といった日本語学の
観点から詳細に分析した、
日本文学、日本史学、日本語教育学、
表現論などの分野にも資する論文集。

日本近代語研究会

(にほんきんだいごけんきゅうかい)

1982年に「青年近代語研究会」として発足した(1984年1月
から「近代語研究会」、2011年5月から現在の名称)、広い
意味での近代語(室町時代以降の日本語)に関する研究
者の集まり。年十回の研究発表会および『論究 日本近代
語』刊行の事業を行う。

本体 15,000 円(+税)

A5判上製カバー装・424頁
ISBN978-4-585-28521-2 C3081
2020年3月刊行

第1集【目次】

創刊の辞 ■日本近代語研究会

連語から見た『徒然草』第1部・第2部

——接続機能表現のプレ近代化と文体—— ■安部 清哉

キリシタン版辞書での同音異義と一語多義 ■豊島 正之

キリシタン版『日葡辞書』『序文』の二重印刷に見る編纂方針について ■中野 遙

ミギテの通時的考察

——〈右の手〉〈右の方〉を表す周辺語句の変遷との関わりを中心に—— ■木川 あづさ

『雑字類編』の書き入れ語——『福恵全書』との関連を巡って—— ■荒尾 禎秀

『語学新書』における格理解

——国学の言語研究をどのように取り入れたか—— ■服部 紀子

明治期の漢字の「かたち」について——『天変地異』を資料として—— ■今野 真二

『世界商売往来』の依拠資料について ■丸山 健一郎

『校正／増補』漢語字類における漢字字形のバリエーションについて ■内田 久美子

日本における「ウラジオストク」の漢字表記 ■シャルコ アンナ

『言海』校正刷における漢字字体／字形について ■小野 春菜

「續々金色夜叉續編」・「新續金色夜叉」の四種本文対照

——『讀賣新聞』、『新小説』、『紅葉全集』、『七版續々金色夜叉』—— ■許 哲

日本統治期台湾の初等国語教科書における一人称代名詞

——国定教科書との比較を通して—— ■山田 実樹

テキストアナリシスによる明治期日本語教科書『日語活法』の検証 ■伊藤 孝行

宏文学院の日本語教師編纂の会話教科書における謙讓表現

——『東語会話大成』を中心に—— ■薛 静

台湾の日本語教育月刊誌『国光』(昭和7年創刊)における投稿文の資料性

——誤用と誤文訂正を中心に—— ■園田 博文

日仏オノマトペの対照

——宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』と *Gauche le violoncelliste*—— ■瀬川 愛美

上田万年をマンネンと呼ぶは礼か非礼か

——近代日本における〈名の字音読み〉習俗の人称—— ■三浦 直人

「わりに」に「割合に」の歴史的変遷

——接続助詞用法と副詞用法の関連を中心に—— ■川島 拓馬

丁寧体否定形式「～ませんです」の動向

——「国会会議録検索システム」を例に—— ■神作 晋一

日本語教育における授受表現の効果的な教え方と

そこに見る日本人の「ウチとソト」感覚 ■木下 哲生

現代語における接続助詞の用法のトコロヲについて ■佐伯 暁子

職場の会話における副詞の使用——職場談話コーパスを調査資料として—— ■吳 雨

「なるほど」考——応答表現としての意味・用法—— ■荻宿 紀子

現代語の副助詞デモの各用法について

——いわゆる「譲歩」「極端」と「例示」の関係について—— ■星野 佳之

索引／執筆者一覧

編集後記 ■小野正弘

書 名	部 数
論究 日本近代語 第1集	本体 15,000 円(+税)
日本近代語研究会 [編]	A5判上製カバー装・424頁 2020年3月刊行 ISBN978-4-585-28521-2 C3081
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

サハ語文法

統語的派生と言語類型論的特異性

江畑冬生 [著]

日本の真北にあたる東シベリアで話されているチュルク系言語。

長年のフィールド調査による記述研究から、

一見すると複雑なサハ語の形態音韻交替や形態統語法を
言語研究一般へも資する形で整理する。

統語的派生、二重対格使役文、非人称受動文などの
言語類型論的な特異性にも注目。

サハ語の初の記述研究書！

【目次】

はじめに 本書の特色・構成・データと出典

図表一覧

略号一覧

第1章 サハ語の概要

第2章 形態音韻交替

第3章 名詞類の形態統語法の概要

第4章 動詞の形態統語法の概要

第5章 主節述語に付加する接辞と文末接語

第6章 語彙的派生と統語的派生

第7章 名詞類の分類と統語機能

第8章 ボイス接辞による派生と非典型的構文

第9章 目的語の形式選択に関わる要因

第10章 サハ語の特質

参考文献

あとがき

附録 主な屈折接辞と活用表

用語・言語名索引



【著者プロフィール】

江畑冬生 (えばた・ふゆき)

新潟大学人文学部・准教授。専門は言語学、チュルク諸語研究(特にサハ語およびトゥバ語を現地調査により研究)。2012年に博士論文『サハ語名詞類の研究——接辞法と統語機能を中心に——』を東京大学大学院に提出し、博士号を取得。

主な論文に「サハ語(ヤクート語)の「双数」の解釈——聞き手の数からの分析——」(『言語研究』151号, 63-74.)や「トゥバ語の証拠性を表すとされる接辞-*dir*の機能——話し手・聞き手の認識からの説明——」(『北方言語研究』第9号, 31-39.)がある。

📖…詳細情報は裏面をご覧ください。

書名	部数
サハ語文法 統語的派生と言語類型論的特異性 江畑冬生 [著]	本体9,800円(+税) A5判上製カバー装・264頁 2020年4月刊行 ISBN978-4-585-28049-1 C3087
ご送付先ご住所(通信欄)	